

美術科

・27年度の「改善プラン」の検証（取り組みにおける成果と課題）

<p>絵画・デザイン・工芸・鑑賞を明確に領域分けしない題材設定にすることで、作業の全行程を通して興味関心が持続した。</p> <p>各題材ごとの目標設定を明確にし、評価の各観点との整合性を持たせたため、導入段階からの集中力や制作意欲の向上につながった。</p> <p>全員展示の校内展は、意欲喚起につながるが、展示作品の変化がなかったため、今年度は制作順を変えて展示作品に多様性をもたせるようにする。</p>

・今回の調査結果

観 点	分 析	課 題
1 美術への関心・意欲・ 態度	前年度の課題であった、実物投影機を使用した作品紹介と導入を行ったところ一斉指導で理解が困難な生徒にも、作業工程の理解と意欲に効果がみられた。	生徒一人一人の状況やクラス全体の傾向に応じて機材を効果的に活用することで、更なる効果が期待できると考える。
2 発想や構想の能力	評価の観点を明確に設定し、指導と評価を行うことで、生徒は、抽象的なイメージやアイデアをまとめる際の集中力が高まった。	生徒が柔軟な発想と構想ができるように表現の幅をもたせながらも、同時に焦点を絞った評価の観点を設定するためには制作全体を見通した緻密な指導案を作成しなければならない。
3 創造的な技能	同一の題材でも、テーマの変化や使用する用具や表現の範囲を変えることで、意欲的な技能習得が可能となった。	3年間を見通した題材設定をしても、生徒の実態に応じて変更せざるを得ない場合が生じる。常に教材開発と、支援が必要な生徒の状況把握に努める。
4 鑑賞の能力	実物投影機と資料集およびポスターを使用した鑑賞は、教員側の説明だけでなく、生徒の発言も取り入れて興味関心を深めることができた。	更に多様な見方や感じ方について、生徒の発言や文章から投げかける授業を目指す。 作品のよさや美しさを友達から指摘される機会の場としていく。

・28年度の授業改善策

<p>(第1学年)</p> <p>題材へ向けた準備の過程を重視し、制作に向かう時の目的意識の重要性に気付くよう指導する。</p> <p>各作業の意味を理解し、途中段階での評価を加えることで、よりよいスケッチとその活用ができるようにする。</p> <p>各自が毎時の目標設定と自己評価を行うことで、授業への意欲を高める。</p> <p>(第2学年)</p> <p>題材へ向けた準備の過程を重視し、目的意識を持って各自が制作に取り組めるようにする。</p> <p>各作業の意味を理解し、途中段階での評価を加えることで、よりよいスケッチとその活用ができるようにする。</p> <p>各自が毎時の目標設定と自己評価を行うことで、授業への意欲を高める。</p> <p>(第3学年)</p> <p>題材へ向けた準備の過程を重視し、目的意識を持って各自が制作に取り組めるようにする。</p> <p>各作業の意味を理解し、途中段階での評価を加えることで、よりよいスケッチとその活用ができるようにする。</p> <p>各自が毎時の目標設定と自己評価を行うことで、授業への意欲を高める。</p>
